

(第1号様式)

プロジェクト登録申請書兼Jブルークレジット[®]認証申請書

ジャパンブルーエコノミー技術研究組合 御中

(代表申請者) 関西エアポート株式会社

住所: 大阪府大阪市西区西本町一丁目4番1号

氏名: 代表取締役社長 山谷 佳之 

法人番号: 9120001194911

Jブルークレジット制度実施要領の規程に基づき、次のとおりプロジェクト登録兼クレジットの認証を申請します。

プロジェクト番号	202211JBCA00012
プロジェクト名称	関西国際空港 豊かな藻場環境の創造

プロジェクト区分 (複数選択可)	人工基盤 吸収源の新たな創出 吸収源の回復、維持、劣化抑制
プロジェクト情報	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト開始前の状況 関西国際空港は、大阪国際空港における騒音問題の解消と、増大する航空輸送の需要に対処することを目的として、「公害のない、地域と共に存共栄する空港」を原点として大阪湾南東部泉州沖約5kmの海上に建設された空港である。関西国際空港株式会社が1期空港島（1988年に護岸が概成）を、関西国際空港用地造成株式会社が2期空港島（2001年に護岸が概成）を埋め立て造成し、2016年4月から関西エアポート株式会社が空港運営を行っている。人工島の造成以前は、エリア一帯が水深18~20mの砂泥地であった。 ・プロジェクト立ち上げの理由 海上空港の建設および運営においては、海域環境との調和が重要視された。新たに造成される人工島が海域環境に負の影響をもたらすのではなく、豊かな海の創出に貢献できるよう、空港島護岸を活用し、多様な海域生物の生息環境となりうる藻場の創出を開始した。 ・プロジェクト開始後の活動内容の説明 護岸総延長約24kmのうち約9割に「緩傾斜石積護岸」を採用し、光が届きやすく海藻が広く繁茂しやすい環境を整備、護岸造成時の1989年から海藻の種苗供給を開始した。その後現在までの約35年間、良好な藻場環境を維持・拡大するためにモニタリング調査や保全活動を継続的に行っている。 ・申請プロジェクトがCO2吸収源の回復や拡大も目的としていることの説明 本プロジェクトは、空港島造成時より生物多様性保全への貢献を目指し実施してきたが、現在ではCO2吸収源としての役割にも着目し、吸収源の拡大を目指して取り組みを進めている。関西エアポート株式会社が掲げる「2050年温室効果ガスの排出量実質ゼロ」の目標達成に向けては、排出量削減の取り組みを行ったうえで、最終的には自社による吸収源対策によって創出されるクレジットを活用した排出量の相殺が必要不可欠であると考えている。そのため、CO2吸収源のさらなる創出を目的として、藻場環境の創造に取り組んでいる。
クレジット取得理由	空港島周辺に広がる藻場は、CO2の吸収源として重要な役割を果たしている。一方で藻場環境を維持・拡大していくためには、継続的な管理や保全活動にかかるコストおよび人員の確保が必要である。こうした活動を継続的に行うためには、藻場によるCO2吸収量を定量的に評価し、その効果をクレジットとして証明および管理しておく必要がある。クレジット化することで、取り組みの意義を示し、活動促進につながる。
クレジット取得後の計画や見通し	クレジットの取得により海藻の繁茂状況を定量的に評価することが可能になり、藻場の継続的な保全および更なる拡大に向けた重要な指標の一つになっている。引き続き海藻分布状況のモニタリング調査を継続して行い、モニタリング結果からみられる海藻の生育状況や周辺環境の変化を捉えながら、藻場環境の維持・拡大に向けた保全対策を実施することで、吸収源の拡大につなげていく。
申請対象期間に実施した活動の概要	<p>【2022年度】</p> <p>○大型海藻（シダモク・タマハハキモク）の母藻移植： 藻場環境の維持・拡大を目指し、空港島内で大型海藻の母藻移植を実施した。移植に際しては、空港島周辺護岸の一部において藻類の分布状況（種類・被度）を調査し、その結果よりホンダワラ類について過年度から減少しているエリアおよび周囲からの自然繁殖が難しいエリアを確認したため、空港島護岸の被度が高いエリアから対象エリアへの母藻移植を行った。</p> <p>○モニタリング調査手法の比較検討： 上記調査と併せて、最適なモニタリング調査方法の比較検討を行った（①ダイバーによる潜水目視、②水中ドローンによる記録映像からの解析、③垂下式水中カメラによる記録映像からの解析、の3つの手法を比較）。また調査時には、アイゴなどの植食性魚類による食害被害が大きいカジメに注目し、食害状況等の確認を行った。</p> <p>【2023年度】</p>

申請対象期間に実施した活動の概要	<p>○カジメの保護・再生： カジメの食害が深刻化していることを受け、次世代幼体の着生に繋がる核藻場の形成を目的に、一部エリアにおいてネットを用いたカジメ母藻の保護を行った。併せて、次世代幼体の着生率を向上させるため、新規の着生基質として建材ブロックの設置を行った。</p> <p>○大型海藻の他地域の海域への提供（プロジェクトエリア外）： 周辺自治体である阪南市と連携し、「大阪湾の海の森（藻場）保全・再生プロジェクト」を開始し、2023年4月には空港島護岸に生育する大型海藻を阪南市の海域に移植した。</p> <p>【2024年度】</p> <p>○藻類分布状況のモニタリング調査： 2025年3月、1期2期空港島護岸の全周において、藻類の分布状況（種類・被度）のモニタリング調査を実施し、藻場環境の維持・拡大に向けた課題把握および今後の施策検討を行った。併せて、ワカメおよび小型海藻の採取・分析を実施し、現存量（湿重量）等を測定した。</p> <p>○大型海藻の他地域の海域への提供（プロジェクトエリア外）： 2024年5月、大阪府が行う「大阪湾奥部ブルーカーボン生態系創出支援事業」と連携し、関西国際空港島護岸に生育する大型海藻の母藻を堺市の海域に移植した。</p>
プロジェクト実施開始日	1989年から現在まで

項目1	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】アラメ場 【構成種】カジメ
	②クレジット認証対象期間	2024年04月01日～2025年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 7.21394(ha) 【面積の算定根拠】 観察結果 [01_面積の算定方法に関する参考資料.pdf] を参照 【面積の資料】 01_面積の算定方法に関する参考資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 2.31 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf 【含水率】 89(%) 【含水率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【含水率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf

項目1	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.1 【P/B比の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【P/B比に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【炭素含有率】 38.1(%) 【炭素含有率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0493 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0528 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
-----	-------	--

項目1	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 $0.431(\text{t-CO}_2)$</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 90%</p> <p>(面積：$7.21394(\text{ha})$ × 評価：90%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：0.0598013 × 評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目1	<p>⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量</p> <p>【CO₂吸収量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 もとは水深18~20mの砂泥地であった海域に、空港島を造成し、緩傾斜石積護岸の採用や積極的な藻場造成の取り組みを行ったことで、新たな藻場環境が創出された。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量 0.368(t-CO ₂)

項目2	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ワカメ場 【構成種】ワカメ
	②クレジット認証対象期間	2024年04月01日～2025年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 55.051755(ha) 【面積の算定根拠】 観察結果 [01_面積の算定方法に関する参考資料.pdf] を参照 【面積の資料】 01_面積の算定方法に関する参考資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 83.73 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf 【含水率】 96.8(%) 【含水率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【含水率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf

項目2	④吸収係数	<p>【P/B比】 2.4 【P/B比の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【P/B比に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【炭素含有率】 40.9(%) 【炭素含有率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0493 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0279 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
-----	-------	--

項目2	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 61.477(t-CO₂)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 90%</p> <p>(面積：55.051755(ha) × 評価：90%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：1.11672 × 評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	<p>【船舶の種類】 調査船 (132kW / 180PS 程度) 【台数】 1隻 【稼働時間】 1.00(h) 【出力】 423.00(kW) 【燃料の種類】 重油A 【CO₂排出量】 0.052(t-CO₂)</p> <hr/> <p>【船舶の種類】 調査船 (132kW / 180PS 程度) 【台数】 1隻 【稼働時間】 1.00(h) 【出力】 405.00(kW) 【燃料の種類】 重油A 【CO₂排出量】 0.05(t-CO₂)</p> <hr/> <p>【船舶の種類】 調査船 (132kW / 180PS 程度) 【台数】 1隻 【稼働時間】 1.00(h) 【出力】 404.00(kW) 【燃料の種類】 重油A 【CO₂排出量】 0.05(t-CO₂)</p> <p>...</p>

項目2	(⑧)ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO₂吸収量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 もとは水深18~20mの砂泥地であった海域に、空港島を造成し、緩傾斜石積護岸の採用や積極的な藻場造成の取り組みを行ったことで、新たな藻場環境が創出された。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	(⑨)クレジット認証対象の 吸収量	52.207(t-CO ₂)

項目3	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ガラモ場 【構成種】アカモク
	②クレジット認証対象期間	2024年04月01日～2025年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 38.340535(ha) 【面積の算定根拠】 観察結果 [01_面積の算定方法に関する参考資料.pdf] を参照 【面積の資料】 01_面積の算定方法に関する参考資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 2.3 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf 【含水率】 87.2(%) 【含水率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【含水率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf

項目3	④吸収係数	<p>【P/B比】 2.4 【P/B比の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【P/B比に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【炭素含有率】 41.7(%) 【炭素含有率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0493 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0499 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
-----	-------	--

項目3	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 6.163(t-CO₂)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 90%</p> <p>(面積：38.340535(ha) × 評価：90%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：0.160753 × 評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した 船舶の情報	船舶使用なし

項目3	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO₂吸收量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 もとは水深18~20mの砂泥地であった海域に、空港島を造成し、緩傾斜石積護岸の採用や積極的な藻場造成の取り組みを行ったことで、新たな藻場環境が創出された。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸收量	5.269(t-CO ₂)

項目4	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ガラモ場 【構成種】ホンダワラ
	②クレジット認証対象期間	2024年04月01日～2025年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 24.061212(ha) 【面積の算定根拠】 観察結果 [01_面積の算定方法に関する参考資料.pdf] を参照 【面積の資料】 01_面積の算定方法に関する参考資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 1.25 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf 【含水率】 81.7(%) 【含水率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【含水率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf

項目4	④吸収係数	<p>【P/B比】 2.4 【P/B比の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【P/B比に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【炭素含有率】 39.6(%) 【炭素含有率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0493 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0499 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
-----	-------	--

項目4	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 2.854(t-CO₂)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 90%</p> <p>(面積：24.061212(ha) × 評価：90%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：0.118616 × 評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した 船舶の情報	船舶使用なし

項目4	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO₂吸収量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 もとは水深18~20mの砂泥地であった海域に、空港島を造成し、緩傾斜石積護岸の採用や積極的な藻場造成の取り組みを行ったことで、新たな藻場環境が創出された。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	2.44(t-CO ₂)

項目5	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ワカメ場 【構成種】小型褐藻類
	②クレジット認証対象期間	2024年04月01日～2025年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 90.73798(ha) 【面積の算定根拠】 観察結果 [01_面積の算定方法に関する参考資料.pdf] を参照 【面積の資料】 01_面積の算定方法に関する参考資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 3.32 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf 【含水率】 85.07(%) 【含水率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【含水率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf

項目5	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.93 【P/B比の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【P/B比に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【炭素含有率】 39(%) 【炭素含有率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0493 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0279 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
-----	-------	---

項目5	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 14.374(t-CO₂)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 90%</p> <p>(面積：90.73798(ha)×評価：90%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：0.158416×評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した 船舶の情報	船舶使用なし

項目5	(⑧)ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO₂吸収量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 もとは水深18~20mの砂泥地であった海域に、空港島を造成し、緩傾斜石積護岸の採用や積極的な藻場造成の取り組みを行ったことで、新たな藻場環境が創出された。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	(⑨)クレジット認証対象の 吸収量	12.29(t-CO ₂)

項目6	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ワカメ場 【構成種】小型褐藻類
	②クレジット認証対象期間	2024年04月01日～2025年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 4.587667(ha) 【面積の算定根拠】 観察結果 [01_面積の算定方法に関する参考資料.pdf] を参照 【面積の資料】 01_面積の算定方法に関する参考資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 6.76 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf 【含水率】 84.57(%) 【含水率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【含水率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf

項目6	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.93 【P/B比の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【P/B比に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【炭素含有率】 25.1(%) 【炭素含有率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0493 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0279 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
-----	-------	---

項目6	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 $0.984(\text{t-CO}_2)$</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 90%</p> <p>(面積：$4.587667(\text{ha})$ × 評価：90%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：0.214548 × 評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目6	<p>⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量</p> <p>【CO₂吸収量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 もとは水深18~20mの砂泥地であった海域に、空港島を造成し、緩傾斜石積護岸の採用や積極的な藻場造成の取り組みを行ったことで、新たな藻場環境が創出された。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	<p>⑨クレジット認証対象の 吸収量</p> <p>0.841(t-CO₂)</p>

項目7	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ワカメ場 【構成種】小型褐藻類
	②クレジット認証対象期間	2024年04月01日～2025年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 46.767652(ha) 【面積の算定根拠】 観察結果 [01_面積の算定方法に関する参考資料.pdf] を参照 【面積の資料】 01_面積の算定方法に関する参考資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 15.94 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf 【含水率】 92.91(%) 【含水率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【含水率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf

項目7	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.93 【P/B比の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【P/B比に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【炭素含有率】 17.7(%) 【炭素含有率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0493 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0279 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
-----	-------	---

項目7	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 7.666(t-CO₂)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 90%</p> <p>(面積：46.767652(ha) × 評価：90%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：0.163925 × 評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した 船舶の情報	船舶使用なし

項目7	<p>⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量</p> <p>【CO₂吸収量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 もとは水深18~20mの砂泥地であった海域に、空港島を造成し、緩傾斜石積護岸の採用や積極的な藻場造成の取り組みを行ったことで、新たな藻場環境が創出された。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量 6.554(t-CO ₂)

項目8	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ノリ型 【構成種】ノリ
	②クレジット認証対象期間	2024年04月01日～2025年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 55.721002(ha) 【面積の算定根拠】 観察結果 [01_面積の算定方法に関する参考資料.pdf] を参照 【面積の資料】 01_面積の算定方法に関する参考資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 0.58 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf 【含水率】 89.7(%) 【含水率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【含水率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf

項目8	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.93 【P/B比の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【P/B比に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【炭素含有率】 20.9(%) 【炭素含有率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0493 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0206 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
-----	-------	---

項目8	<p>⑤吸收量算定方法</p>	<p>【計算に利用した式】 式2 【算定結果（吸收量）】 0.516(t-CO₂)</p>
	<p>⑥確実性の評価</p>	<p>【対象生態系面積等の評価】 90% (面積：55.721002(ha)×評価：90%) 【吸収係数の評価】 95% (吸収係数：0.00926422×評価：95%)</p>
	<p>⑦調査時に使用した 船舶の情報</p>	<p>船舶使用なし</p>

項目8	<p>⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量</p> <p>【CO₂吸収量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 もとは水深18~20mの砂泥地であった海域に、空港島を造成し、緩傾斜石積護岸の採用や積極的な藻場造成の取り組みを行ったことで、新たな藻場環境が創出された。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量 0.441(t-CO ₂)

項目9	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】サンゴモ型 【構成種】サンゴモ
	②クレジット認証対象期間	2024年04月01日～2025年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 69.967522(ha) 【面積の算定根拠】 観察結果 [01_面積の算定方法に関する参考資料.pdf] を参照 【面積の資料】 01_面積の算定方法に関する参考資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 3 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf 【含水率】 54.56(%) 【含水率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【含水率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf

項目9	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.93 【P/B比の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【P/B比に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【炭素含有率】 16.3(%) 【炭素含有率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0493 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0484 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
-----	-------	---

項目9	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 16.123(t-CO₂)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 90%</p> <p>(面積：69.967522(ha) × 評価：90%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：0.230442 × 評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した 船舶の情報	船舶使用なし

項目9	(⑧)ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO₂吸収量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 もとは水深18~20mの砂泥地であった海域に、空港島を造成し、緩傾斜石積護岸の採用や積極的な藻場造成の取り組みを行ったことで、新たな藻場環境が創出された。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	(⑨)クレジット認証対象の 吸収量	13.785(t-CO ₂)

項目10	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】テングサ場 【構成種】マクサ
	②クレジット認証対象期間	2024年04月01日～2025年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 116.079237(ha) 【面積の算定根拠】 観察結果 [01_面積の算定方法に関する参考資料.pdf] を参照 【面積の資料】 01_面積の算定方法に関する参考資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 3.19 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf 【含水率】 86.1(%) 【含水率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【含水率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf

項目10	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.93 【P/B比の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【P/B比に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【炭素含有率】 29.9(%) 【炭素含有率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0493 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0484 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
------	-------	---

項目10	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 15.96(t-CO₂)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 90%</p> <p>(面積：116.079237(ha)×評価：90%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：0.137496×評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目10	(⑧)ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO₂吸収量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 もとは水深18~20mの砂泥地であった海域に、空港島を造成し、緩傾斜石積護岸の採用や積極的な藻場造成の取り組みを行ったことで、新たな藻場環境が創出された。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	(⑨)クレジット認証対象の 吸収量	13.646(t-CO ₂)

項目11	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】テングサ場 【構成種】その他
	②クレジット認証対象期間	2024年04月01日～2025年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 84.554642(ha) 【面積の算定根拠】 観察結果 [01_面積の算定方法に関する参考資料.pdf] を参照 【面積の資料】 01_面積の算定方法に関する参考資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 3.84 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf 【含水率】 90.06(%) 【含水率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【含水率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf

項目11	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.93 【P/B比の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【P/B比に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【炭素含有率】 25.7(%) 【炭素含有率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0493 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0484 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
------	-------	---

項目11	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 8.602(t-CO₂)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 90%</p> <p>(面積：84.554642(ha) × 評価：90%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：0.101734 × 評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した 船舶の情報	船舶使用なし

項目11	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO₂吸收量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 もとは水深18~20mの砂泥地であった海域に、空港島を造成し、緩傾斜石積護岸の採用や積極的な藻場造成の取り組みを行ったことで、新たな藻場環境が創出された。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸收量	7.354(t-CO ₂)

項目12	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】緑藻型 【構成種】緑藻
	②クレジット認証対象期間	2024年04月01日～2025年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 19.046977(ha) 【面積の算定根拠】 観察結果 [01_面積の算定方法に関する参考資料.pdf] を参照 【面積の資料】 01_面積の算定方法に関する参考資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 1.63 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf 【含水率】 92.11(%) 【含水率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【含水率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf

項目12	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.93 【P/B比の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【P/B比に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【炭素含有率】 26.1(%) 【炭素含有率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0493 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0699 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
------	-------	---

項目12	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 0.808(t-CO₂)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 90%</p> <p>(面積：19.046977(ha) × 評価：90%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：0.0424719 × 評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目12	<p>⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量</p> <p>【CO₂吸収量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 もとは水深18~20mの砂泥地であった海域に、空港島を造成し、緩傾斜石積護岸の採用や積極的な藻場造成の取り組みを行ったことで、新たな藻場環境が創出された。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量 0.691(t-CO ₂)

項目13	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】アラメ場 【構成種】カジメ
	②クレジット認証対象期間	2023年04月01日～2024年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 9.458287(ha) 【面積の算定根拠】 FY2021およびFY2024の調査結果より推計 [03_FY2022,23の藻場面積およびCO2吸収量の算定に関する参考資料.pdf] を参照 【面積の資料】 03_FY2022,23の藻場面積およびCO2吸収量の算定に関する参考資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 2.38 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf 【含水率】 89(%) 【含水率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【含水率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf

項目13	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.1 【P/B比の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【P/B比に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【炭素含有率】 38.1(%) 【炭素含有率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0493 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0528 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
------	-------	--

項目13	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 0.582(t-CO₂)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 85%</p> <p>(面積：9.458287(ha)×評価：85%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：0.0616135×評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目13	<p>⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量</p> <p>【CO₂吸収量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 もとは水深18~20mの砂泥地であった海域に、空港島を造成し、緩傾斜石積護岸の採用や積極的な藻場造成の取り組みを行ったことで、新たな藻場環境が創出された。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	<p>⑨クレジット認証対象の 吸収量</p> <p>0.47(t-CO₂)</p>

項目14	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ワカメ場 【構成種】ワカメ
	②クレジット認証対象期間	2023年04月01日～2024年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 45.799482(ha) 【面積の算定根拠】 FY2021およびFY2024の調査結果より推計 [03_FY2022,23の藻場面積およびCO ₂ 吸収量の算定に関する参考資料.pdf] を参照 【面積の資料】 03_FY2022,23の藻場面積およびCO ₂ 吸収量の算定に関する参考資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 70.35 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf 【含水率】 96.8(%) 【含水率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【含水率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf

項目14	④吸収係数	<p>【P/B比】 2.4 【P/B比の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【P/B比に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【炭素含有率】 40.9(%) 【炭素含有率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0493 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0279 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
------	-------	--

項目14	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 42.972(t-CO₂)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 85%</p> <p>(面積：45.799482(ha) × 評価：85%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：0.938272 × 評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した 船舶の情報	船舶使用なし

項目14	<p>⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量</p> <p>【CO₂吸収量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 もとは水深18~20mの砂泥地であった海域に、空港島を造成し、緩傾斜石積護岸の採用や積極的な藻場造成の取り組みを行ったことで、新たな藻場環境が創出された。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	<p>⑨クレジット認証対象の 吸収量</p> <p>34.7(t-CO₂)</p>

項目15	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ガラモ場 【構成種】アカモク
	②クレジット認証対象期間	2023年04月01日～2024年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 37.07983(ha) 【面積の算定根拠】 FY2021およびFY2024の調査結果より推計 [03_FY2022,23の藻場面積およびCO2吸収量の算定に関する参考資料.pdf] を参照 【面積の資料】 03_FY2022,23の藻場面積およびCO2吸収量の算定に関する参考資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 2.43 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf 【含水率】 87.2(%) 【含水率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【含水率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf

項目15	④吸収係数	<p>【P/B比】 2.4 【P/B比の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【P/B比に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【炭素含有率】 41.7(%) 【炭素含有率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0493 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0499 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
------	-------	--

項目15	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 6.297(t-CO₂)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 85%</p> <p>(面積：37.07983(ha)×評価：85%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：0.169839×評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した 船舶の情報	船舶使用なし

項目15	<p>⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量</p> <p>【CO₂吸収量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 もとは水深18~20mの砂泥地であった海域に、空港島を造成し、緩傾斜石積護岸の採用や積極的な藻場造成の取り組みを行ったことで、新たな藻場環境が創出された。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	<p>⑨クレジット認証対象の 吸収量</p> <p>5.085(t-CO₂)</p>

項目16	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ガラモ場 【構成種】ホンダワラ
	②クレジット認証対象期間	2023年04月01日～2024年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 28.257077(ha) 【面積の算定根拠】 FY2021およびFY2024の調査結果より推計 [03_FY2022,23の藻場面積およびCO2吸収量の算定に関する参考資料.pdf] を参照 【面積の資料】 03_FY2022,23の藻場面積およびCO2吸収量の算定に関する参考資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 1.33 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf 【含水率】 81.7(%) 【含水率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【含水率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf

項目16	④吸収係数	<p>【P/B比】 2.4 【P/B比の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【P/B比に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【炭素含有率】 39.6(%) 【炭素含有率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0493 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0499 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
------	-------	--

項目16	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 3.566(t-CO₂)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 85%</p> <p>(面積：28.257077(ha) × 評価：85%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：0.126207 × 評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目16	<p>⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量</p> <p>【CO₂吸収量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 もとは水深18~20mの砂泥地であった海域に、空港島を造成し、緩傾斜石積護岸の採用や積極的な藻場造成の取り組みを行ったことで、新たな藻場環境が創出された。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量 2.879(t-CO ₂)

項目17	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ワカメ場 【構成種】小型褐藻類
	②クレジット認証対象期間	2023年04月01日～2024年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 80.243888(ha) 【面積の算定根拠】 FY2021およびFY2024の調査結果より推計 [03_FY2022,23の藻場面積およびCO ₂ 吸収量の算定に関する参考資料.pdf] を参照 【面積の資料】 03_FY2022,23の藻場面積およびCO ₂ 吸収量の算定に関する参考資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 3.34 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf 【含水率】 85.07(%) 【含水率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【含水率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf

項目17	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.93 【P/B比の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【P/B比に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【炭素含有率】 39(%) 【炭素含有率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0493 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0279 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
------	-------	---

項目17	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 12.788(t-CO₂)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 85%</p> <p>(面積：80.243888(ha) × 評価：85%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：0.159371 × 評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した 船舶の情報	船舶使用なし

項目17	(⑧)ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO₂吸収量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 もとは水深18~20mの砂泥地であった海域に、空港島を造成し、緩傾斜石積護岸の採用や積極的な藻場造成の取り組みを行ったことで、新たな藻場環境が創出された。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	(⑨)クレジット認証対象の 吸収量	10.326(t-CO ₂)

項目18	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ワカメ場 【構成種】小型褐藻類
	②クレジット認証対象期間	2023年04月01日～2024年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 9.365533(ha) 【面積の算定根拠】 FY2021およびFY2024の調査結果より推計 [03_FY2022,23の藻場面積およびCO ₂ 吸収量の算定に関する参考資料.pdf] を参照 【面積の資料】 03_FY2022,23の藻場面積およびCO ₂ 吸収量の算定に関する参考資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 6.34 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf 【含水率】 84.57(%) 【含水率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【含水率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf

項目18	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.93 【P/B比の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【P/B比に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【炭素含有率】 25.1(%) 【炭素含有率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0493 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0279 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
------	-------	---

項目18	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 1.884(t-CO₂)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 85%</p> <p>(面積：9.365533(ha)×評価：85%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：0.201218×評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目18	<p>⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量</p> <p>【CO₂吸収量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 もとは水深18~20mの砂泥地であった海域に、空港島を造成し、緩傾斜石積護岸の採用や積極的な藻場造成の取り組みを行ったことで、新たな藻場環境が創出された。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量 1.521(t-CO ₂)

項目19	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ワカメ場 【構成種】小型褐藻類
	②クレジット認証対象期間	2023年04月01日～2024年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 47.830999(ha) 【面積の算定根拠】 FY2021およびFY2024の調査結果より推計 [03_FY2022,23の藻場面積およびCO ₂ 吸収量の算定に関する参考資料.pdf] を参照 【面積の資料】 03_FY2022,23の藻場面積およびCO ₂ 吸収量の算定に関する参考資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 15.29 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf 【含水率】 92.91(%) 【含水率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【含水率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf

項目19	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.93 【P/B比の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【P/B比に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【炭素含有率】 17.7(%) 【炭素含有率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0493 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0279 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
------	-------	---

項目19	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 7.52(t-CO₂)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 85%</p> <p>(面積：47.830999(ha) × 評価：85%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：0.15724 × 評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した 船舶の情報	船舶使用なし

項目19	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO₂吸收量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 現地観測値 【02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf】を参照 【資料】 添付ファイルなし</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸收量	6.073(t-CO ₂)

項目20	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ノリ型 【構成種】ノリ
	②クレジット認証対象期間	2023年04月01日～2024年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 49.084459(ha) 【面積の算定根拠】 FY2021およびFY2024の調査結果より推計 [03_FY2022,23の藻場面積およびCO ₂ 吸収量の算定に関する参考資料.pdf] を参照 【面積の資料】 03_FY2022,23の藻場面積およびCO ₂ 吸収量の算定に関する参考資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 0.58 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf 【含水率】 89.7(%) 【含水率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【含水率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf

項目20	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.93 【P/B比の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【P/B比に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【炭素含有率】 20.9(%) 【炭素含有率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0493 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0206 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
------	-------	---

項目20	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 $0.454(\text{t-CO}_2)$</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 85%</p> <p>(面積：$49.084459(\text{ha})$ × 評価：85%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：0.00926422 × 評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した 船舶の情報	船舶使用なし

項目20	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO₂吸收量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 もとは水深18~20mの砂泥地であった海域に、空港島を造成し、緩傾斜石積護岸の採用や積極的な藻場造成の取り組みを行ったことで、新たな藻場環境が創出された。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸收量	0.367(t-CO ₂)

項目21	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】サンゴモ型 【構成種】サンゴモ
	②クレジット認証対象期間	2023年04月01日～2024年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 61.517535(ha) 【面積の算定根拠】 FY2021およびFY2024の調査結果より推計 [03_FY2022,23の藻場面積およびCO2吸収量の算定に関する参考資料.pdf] を参照 【面積の資料】 03_FY2022,23の藻場面積およびCO2吸収量の算定に関する参考資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 3.15 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf 【含水率】 54.56(%) 【含水率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【含水率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf

項目21	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.93 【P/B比の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【P/B比に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【炭素含有率】 16.3(%) 【炭素含有率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0493 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0484 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
------	-------	---

項目21	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 14.885(t-CO₂)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 85%</p> <p>(面積：61.517535(ha) × 評価：85%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：0.241964 × 評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目21	<p>⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量</p> <p>【CO₂吸収量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 もとは水深18~20mの砂泥地であった海域に、空港島を造成し、緩傾斜石積護岸の採用や積極的な藻場造成の取り組みを行ったことで、新たな藻場環境が創出された。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量 12.019(t-CO ₂)

項目22	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】テングサ場 【構成種】マクサ
	②クレジット認証対象期間	2023年04月01日～2024年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 98.797094(ha) 【面積の算定根拠】 FY2021およびFY2024の調査結果より推計 [03_FY2022,23の藻場面積およびCO2吸収量の算定に関する参考資料.pdf] を参照 【面積の資料】 03_FY2022,23の藻場面積およびCO2吸収量の算定に関する参考資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 3.41 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf 【含水率】 86.1(%) 【含水率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【含水率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf

項目22	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.93 【P/B比の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【P/B比に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【炭素含有率】 29.9(%) 【炭素含有率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0493 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0484 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
------	-------	---

項目22	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 14.521(t-CO₂)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 85%</p> <p>(面積：98.797094(ha) × 評価：85%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：0.146979 × 評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目22	(⑧)ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO₂吸収量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 もとは水深18~20mの砂泥地であった海域に、空港島を造成し、緩傾斜石積護岸の採用や積極的な藻場造成の取り組みを行ったことで、新たな藻場環境が創出された。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	(⑨)クレジット認証対象の 吸収量	11.725(t-CO ₂)

項目23	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】テングサ場 【構成種】その他
	②クレジット認証対象期間	2023年04月01日～2024年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 72.666716(ha) 【面積の算定根拠】 FY2021およびFY2024の調査結果より推計 [03_FY2022,23の藻場面積およびCO ₂ 吸収量の算定に関する参考資料.pdf] を参照 【面積の資料】 03_FY2022,23の藻場面積およびCO ₂ 吸収量の算定に関する参考資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 3.41 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf 【含水率】 90.06(%) 【含水率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【含水率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf

項目23	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.93 【P/B比の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【P/B比に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【炭素含有率】 25.7(%) 【炭素含有率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0493 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0484 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
------	-------	---

項目23	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 6.564(t-CO₂)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 85%</p> <p>(面積：72.666716(ha) × 評価：85%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：0.0903417 × 評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目23	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO₂吸收量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 もとは水深18~20mの砂泥地であった海域に、空港島を造成し、緩傾斜石積護岸の採用や積極的な藻場造成の取り組みを行ったことで、新たな藻場環境が創出された。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸收量	5.301(t-CO ₂)

項目24	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】緑藻型 【構成種】緑藻
	②クレジット認証対象期間	2023年04月01日～2024年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 28.294689(ha) 【面積の算定根拠】 FY2021およびFY2024の調査結果より推計 [03_FY2022,23の藻場面積およびCO ₂ 吸収量の算定に関する参考資料.pdf] を参照 【面積の資料】 03_FY2022,23の藻場面積およびCO ₂ 吸収量の算定に関する参考資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 1.58 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf 【含水率】 92.11(%) 【含水率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【含水率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf

項目24	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.93 【P/B比の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【P/B比に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【炭素含有率】 26.1(%) 【炭素含有率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0493 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0699 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
------	-------	---

項目24	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 1.164(t-CO₂)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 85%</p> <p>(面積：28.294689(ha) × 評価：85%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：0.0411691 × 評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目24	(⑧)ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO₂吸収量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 もとは水深18~20mの砂泥地であった海域に、空港島を造成し、緩傾斜石積護岸の採用や積極的な藻場造成の取り組みを行ったことで、新たな藻場環境が創出された。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	(⑨)クレジット認証対象の 吸収量	0.94(t-CO ₂)

項目25	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】アラメ場 【構成種】カジメ
	②クレジット認証対象期間	2022年04月01日～2023年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 11.702635(ha) 【面積の算定根拠】 FY2021およびFY2024の調査結果より推計 [03_FY2022,23の藻場面積およびCO2吸収量の算定に関する参考資料.pdf] を参照 【面積の資料】 03_FY2022,23の藻場面積およびCO2吸収量の算定に関する参考資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 2.42 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf 【含水率】 89(%) 【含水率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【含水率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf

項目25	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.1 【P/B比の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【P/B比に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【炭素含有率】 38.1(%) 【炭素含有率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0493 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0528 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
------	-------	--

項目25	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 0.733(t-CO₂)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 85%</p> <p>(面積：11.702635(ha) × 評価：85%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：0.062649 × 評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目25	<p>⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量</p> <p>【CO₂吸収量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 もとは水深18~20mの砂泥地であった海域に、空港島を造成し、緩傾斜石積護岸の採用や積極的な藻場造成の取り組みを行ったことで、新たな藻場環境が創出された。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量 0.592(t-CO ₂)

項目26	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ワカメ場 【構成種】ワカメ
	②クレジット認証対象期間	2022年04月01日～2023年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 36.54721(ha) 【面積の算定根拠】 FY2021およびFY2024の調査結果より推計 [03_FY2022,23の藻場面積およびCO ₂ 吸収量の算定に関する参考資料.pdf] を参照 【面積の資料】 03_FY2022,23の藻場面積およびCO ₂ 吸収量の算定に関する参考資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 50.19 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf 【含水率】 96.8(%) 【含水率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【含水率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf

項目26	④吸収係数	<p>【P/B比】 2.4 【P/B比の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【P/B比に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【炭素含有率】 40.9(%) 【炭素含有率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0493 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0279 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
------	-------	--

項目26	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 24.464(t-CO₂)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 85%</p> <p>(面積：36.54721(ha)×評価：85%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：0.669394×評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目26	(⑧)ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO₂吸収量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 もとは水深18~20mの砂泥地であった海域に、空港島を造成し、緩傾斜石積護岸の採用や積極的な藻場造成の取り組みを行ったことで、新たな藻場環境が創出された。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	(⑨)クレジット認証対象の 吸収量	19.755(t-CO ₂)

項目27	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ガラモ場 【構成種】アカモク
	②クレジット認証対象期間	2022年04月01日～2023年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 35.819126(ha) 【面積の算定根拠】 FY2021およびFY2024の調査結果より推計 [03_FY2022,23の藻場面積およびCO2吸収量の算定に関する参考資料.pdf] を参照 【面積の資料】 03_FY2022,23の藻場面積およびCO2吸収量の算定に関する参考資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 2.57 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf 【含水率】 87.2(%) 【含水率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【含水率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf

項目27	④吸収係数	<p>【P/B比】 2.4 【P/B比の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【P/B比に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【炭素含有率】 41.7(%) 【炭素含有率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0493 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0499 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
------	-------	--

項目27	<p>⑤吸收量算定方法</p>	<p>【計算に利用した式】 式2 【算定結果（吸收量）】 6.433(t-CO₂)</p>
	<p>⑥確実性の評価</p>	<p>【対象生態系面積等の評価】 85% (面積：35.819126(ha)×評価：85%) 【吸収係数の評価】 95% (吸収係数：0.179624×評価：95%)</p>
	<p>⑦調査時に使用した 船舶の情報</p>	<p>船舶使用なし</p>

項目27	<p>⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量</p> <p>【CO₂吸収量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 もとは水深18~20mの砂泥地であった海域に、空港島を造成し、緩傾斜石積護岸の採用や積極的な藻場造成の取り組みを行ったことで、新たな藻場環境が創出された。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	<p>⑨クレジット認証対象の 吸収量</p> <p>5.195(t-CO₂)</p>

項目28	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ガラモ場 【構成種】ホンダワラ
	②クレジット認証対象期間	2022年04月01日～2023年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 32.452942(ha) 【面積の算定根拠】 FY2021およびFY2024の調査結果より推計 [03_FY2022,23の藻場面積およびCO ₂ 吸収量の算定に関する参考資料.pdf] を参照 【面積の資料】 03_FY2022,23の藻場面積およびCO ₂ 吸収量の算定に関する参考資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 1.39 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf 【含水率】 81.7(%) 【含水率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【含水率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf

項目28	④吸収係数	<p>【P/B比】 2.4 【P/B比の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【P/B比に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【炭素含有率】 39.6(%) 【炭素含有率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0493 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0499 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
------	-------	--

項目28	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 4.28(t-CO₂)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 85%</p> <p>(面積：32.452942(ha) × 評価：85%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：0.131901 × 評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目28	<p>⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量</p> <p>【CO₂吸収量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 もとは水深18~20mの砂泥地であった海域に、空港島を造成し、緩傾斜石積護岸の採用や積極的な藻場造成の取り組みを行ったことで、新たな藻場環境が創出された。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量 3.456(t-CO ₂)

項目29	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ワカメ場 【構成種】小型褐藻類
	②クレジット認証対象期間	2022年04月01日～2023年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 69.749796(ha) 【面積の算定根拠】 FY2021およびFY2024の調査結果より推計 [03_FY2022,23の藻場面積およびCO ₂ 吸収量の算定に関する参考資料.pdf] を参照 【面積の資料】 03_FY2022,23の藻場面積およびCO ₂ 吸収量の算定に関する参考資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 3.37 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf 【含水率】 85.07(%) 【含水率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【含水率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf

項目29	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.93 【P/B比の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【P/B比に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【炭素含有率】 39(%) 【炭素含有率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0493 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0279 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
------	-------	---

項目29	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 11.215(t-CO₂)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 85%</p> <p>(面積：69.749796(ha) × 評価：85%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：0.160802 × 評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目29	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO₂吸收量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 もとは水深18~20mの砂泥地であった海域に、空港島を造成し、緩傾斜石積護岸の採用や積極的な藻場造成の取り組みを行ったことで、新たな藻場環境が創出された。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸收量	9.056(t-CO ₂)

項目30	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ワカメ場 【構成種】小型褐藻類
	②クレジット認証対象期間	2022年04月01日～2023年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 14.143399(ha) 【面積の算定根拠】 FY2021およびFY2024の調査結果より推計 [03_FY2022,23の藻場面積およびCO ₂ 吸収量の算定に関する参考資料.pdf] を参照 【面積の資料】 03_FY2022,23の藻場面積およびCO ₂ 吸収量の算定に関する参考資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 6.2 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf 【含水率】 84.57(%) 【含水率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【含水率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf

項目30	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.93 【P/B比の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【P/B比に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【炭素含有率】 25.1(%) 【炭素含有率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0493 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0279 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
------	-------	---

項目30	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 2.783(t-CO₂)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 85%</p> <p>(面積：14.143399(ha) × 評価：85%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：0.196774 × 評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した 船舶の情報	船舶使用なし

項目30	<p>⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量</p> <p>【CO₂吸収量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 もとは水深18~20mの砂泥地であった海域に、空港島を造成し、緩傾斜石積護岸の採用や積極的な藻場造成の取り組みを行ったことで、新たな藻場環境が創出された。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量 2.247(t-CO ₂)

項目31	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ワカメ場 【構成種】小型褐藻類
	②クレジット認証対象期間	2022年04月01日～2023年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 48.894345(ha) 【面積の算定根拠】 FY2021およびFY2024の調査結果より推計 [03_FY2022,23の藻場面積およびCO ₂ 吸収量の算定に関する参考資料.pdf] を参照 【面積の資料】 03_FY2022,23の藻場面積およびCO ₂ 吸収量の算定に関する参考資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 14.67 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf 【含水率】 92.91(%) 【含水率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【含水率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf

項目31	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.93 【P/B比の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【P/B比に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【炭素含有率】 17.7(%) 【炭素含有率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0493 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0279 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
------	-------	---

項目31	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 7.376(t-CO₂)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 85%</p> <p>(面積：48.894345(ha) × 評価：85%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：0.150864 × 評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目31	<p>⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量</p> <p>【CO₂吸収量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 もとは水深18~20mの砂泥地であった海域に、空港島を造成し、緩傾斜石積護岸の採用や積極的な藻場造成の取り組みを行ったことで、新たな藻場環境が創出された。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量 5.956(t-CO ₂)

項目32	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ノリ型 【構成種】ノリ
	②クレジット認証対象期間	2022年04月01日～2023年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 42.447915(ha) 【面積の算定根拠】 FY2021およびFY2024の調査結果より推計 [03_FY2022,23の藻場面積およびCO ₂ 吸収量の算定に関する参考資料.pdf] を参照 【面積の資料】 03_FY2022,23の藻場面積およびCO ₂ 吸収量の算定に関する参考資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 0.58 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf 【含水率】 89.7(%) 【含水率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【含水率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf

項目32	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.93 【P/B比の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【P/B比に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【炭素含有率】 20.9(%) 【炭素含有率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0493 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0206 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
------	-------	---

項目32	<p>⑤吸收量算定方法</p>	<p>【計算に利用した式】 式2 【算定結果（吸收量）】 0.393(t-CO₂)</p>
	<p>⑥確実性の評価</p>	<p>【対象生態系面積等の評価】 85% (面積：42.447915(ha)×評価：85%) 【吸収係数の評価】 95% (吸収係数：0.00926422×評価：95%)</p>
	<p>⑦調査時に使用した 船舶の情報</p>	<p>船舶使用なし</p>

項目32	<p>⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量</p> <p>【CO₂吸収量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 もとは水深18~20mの砂泥地であった海域に、空港島を造成し、緩傾斜石積護岸の採用や積極的な藻場造成の取り組みを行ったことで、新たな藻場環境が創出された。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量 0.317(t-CO ₂)

項目33	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】サンゴモ型 【構成種】サンゴモ
	②クレジット認証対象期間	2022年04月01日～2023年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 53.067549(ha) 【面積の算定根拠】 FY2021およびFY2024の調査結果より推計 [03_FY2022,23の藻場面積およびCO2吸収量の算定に関する参考資料.pdf] を参照 【面積の資料】 03_FY2022,23の藻場面積およびCO2吸収量の算定に関する参考資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 3.36 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf 【含水率】 54.56(%) 【含水率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【含水率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf

項目33	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.93 【P/B比の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【P/B比に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【炭素含有率】 16.3(%) 【炭素含有率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0493 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0484 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
------	-------	---

項目33	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 13.696(t-CO₂)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 85%</p> <p>(面積：53.067549(ha) × 評価：85%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：0.258095 × 評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した 船舶の情報	船舶使用なし

項目33	<p>⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量</p> <p>【CO₂吸収量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 もとは水深18~20mの砂泥地であった海域に、空港島を造成し、緩傾斜石積護岸の採用や積極的な藻場造成の取り組みを行ったことで、新たな藻場環境が創出された。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量 11.059(t-CO ₂)

項目34	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】テングサ場 【構成種】マクサ
	②クレジット認証対象期間	2022年04月01日～2023年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 81.51495(ha) 【面積の算定根拠】 FY2021およびFY2024の調査結果より推計 [03_FY2022,23の藻場面積およびCO2吸収量の算定に関する参考資料.pdf] を参照 【面積の資料】 03_FY2022,23の藻場面積およびCO2吸収量の算定に関する参考資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 3.73 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf 【含水率】 86.1(%) 【含水率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【含水率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf

項目34	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.93 【P/B比の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【P/B比に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【炭素含有率】 29.9(%) 【炭素含有率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0493 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0484 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
------	-------	---

項目34	<p>⑤吸収量算定方法</p>	<p>【計算に利用した式】 式2 【算定結果（吸収量）】 13.105(t-CO₂)</p>
	<p>⑥確実性の評価</p>	<p>【対象生態系面積等の評価】 85% (面積：81.51495(ha)×評価：85%) 【吸収係数の評価】 95% (吸収係数：0.160772×評価：95%)</p>
	<p>⑦調査時に使用した 船舶の情報</p>	<p>船舶使用なし</p>

項目34	<p>⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量</p> <p>【CO₂吸収量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 もとは水深18~20mの砂泥地であった海域に、空港島を造成し、緩傾斜石積護岸の採用や積極的な藻場造成の取り組みを行ったことで、新たな藻場環境が創出された。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量 10.582(t-CO ₂)

項目35	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】テングサ場 【構成種】その他
	②クレジット認証対象期間	2022年04月01日～2023年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 60.77879(ha) 【面積の算定根拠】 FY2021およびFY2024の調査結果より推計 [03_FY2022,23の藻場面積およびCO ₂ 吸収量の算定に関する参考資料.pdf] を参照 【面積の資料】 03_FY2022,23の藻場面積およびCO ₂ 吸収量の算定に関する参考資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 2.81 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf 【含水率】 90.06(%) 【含水率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【含水率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf

項目35	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.93 【P/B比の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【P/B比に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【炭素含有率】 25.7(%) 【炭素含有率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0493 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0484 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
------	-------	---

項目35	<p>⑤吸收量算定方法</p>	<p>【計算に利用した式】 式2 【算定結果（吸收量）】 4.524(t-CO₂)</p>
	<p>⑥確実性の評価</p>	<p>【対象生態系面積等の評価】 85% (面積：60.77879(ha)×評価：85%) 【吸収係数の評価】 95% (吸収係数：0.0744458×評価：95%)</p>
	<p>⑦調査時に使用した 船舶の情報</p>	<p>船舶使用なし</p>

項目35	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO₂吸收量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 もとは水深18~20mの砂泥地であった海域に、空港島を造成し、緩傾斜石積護岸の採用や積極的な藻場造成の取り組みを行ったことで、新たな藻場環境が創出された。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸收量	3.653(t-CO ₂)

項目36	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】緑藻型 【構成種】緑藻
	②クレジット認証対象期間	2022年04月01日～2023年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 37.5424(ha) 【面積の算定根拠】 FY2021およびFY2024の調査結果より推計 [03_FY2022,23の藻場面積およびCO ₂ 吸収量の算定に関する参考資料.pdf] を参照 【面積の資料】 03_FY2022,23の藻場面積およびCO ₂ 吸収量の算定に関する参考資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 1.55 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf 【含水率】 92.11(%) 【含水率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【含水率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf

項目36	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.93 【P/B比の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【P/B比に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【炭素含有率】 26.1(%) 【炭素含有率の算定根拠】 現地観測値 [02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf] を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_吸収量算定に係る各種係数に関する参考資料.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0493 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0699 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
------	-------	---

項目36	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 1.516(t-CO₂)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 85%</p> <p>(面積：37.5424(ha)×評価：85%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：0.0403874×評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目36	<p>⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量</p> <p>【CO₂吸収量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 もとは水深18~20mの砂泥地であった海域に、空港島を造成し、緩傾斜石積護岸の採用や積極的な藻場造成の取り組みを行ったことで、新たな藻場環境が創出された。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量 1.224(t-CO ₂)

合計のクレジット認証対象の吸収量	280.3 t
------------------	---------